

# ウトナイ湖通信



No.238

2024年3月号



本州で越冬したマガンをはじめとするガン類、ハクチョウ類、カモ類などの渡り鳥が、シベリアやロシア極東の繁殖地へと北上する途中に、中継地のウトナイ湖に飛来します。数万羽のガン類の群れは迫力満点です。

ウトナイ湖は、周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

## 3月のイベント情報

### お気軽ガイドウォークinウトナイ湖

3月10日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

- 定員:10名程度
- 対象:どなたでも  
(小学生以下保護者同伴)
- 申込:不要。直接当センターへ
- 持ち物:防寒着、雪上を歩ける靴

### 毛糸のポンポンで野鳥を作ろう

3月16日(土) 11:00~

毛糸を巻いてシマエナガの人形を作ります。

- 定員:先着4組(1組1作品まで)
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:3/2~3/15の開館時間に  
電話で当センターへ

### アイロンビーズで野鳥を作ろう

~シマエナガ編~

3月23日(土) 11:00~、14:00~

- 定員:各回先着4組(1組2作品まで)
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:3/9~3/22の開館時間に  
電話で当センターへ

### ウトナイ湖・水辺の渡り鳥ウォッチング 3月17日(日) 10:00~12:00

春の渡り鳥として飛来する水鳥を観察します。運が良ければワシ類も見られるかもしれません。双眼鏡や図鑑もお貸しします。※荒天時は3/23(土)に延期

- 定員:15名(先着順)
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:3/1~3/16の開館時間に電話で当センターへ

## 市民ギャラリー

### 「苫小牧の自然写真展」

開催期間:2024年3月1日(金)~3月19日(火) 展示:苫小牧市環境生活課  
市内で撮影された自然景観、野生鳥獣、植物、昆虫などの写真が並びます。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



~ウトナイ湖~

・国指定鳥獣保護区特別保護地区  
・ラムサール条約湿地  
・東アジア・オーストラリア地域  
・フライウェイ・パートナーシップ

検索

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



## ヒヨドリ

### 原因：カラスの襲撃



経過観察時の様子



伸長中の風切り羽  
(保護から約2週間)

- 1月 27日 8:30頃、道路上でカラスに襲われているところを発見保護される。
- ↓
- 1月 28日 翌日9:30頃、保護センターへ搬送。初診にて、左翼の風切り羽および背部の羽毛の欠損を確認。骨格に明らかな異常は認めなかったが、飛翔困難だった。打撲症も視野に入れ、経過観察とした。
- ↓
- 2月 15日 保護から20日。欠損部の羽毛も順調に生え、飛翔も可能となる。近日中にリリース予定

### ヒヨドリ (スズメ目 ヒヨドリ科)

全長27cm。雌雄同色。都市部や住宅地、民家の庭でもごく普通に見られる身近な野鳥です。木の実、花芽、花の蜜、昆虫などを食べます。しばしば、フライング・キャッチを行います。救護室では主にリンゴを与えています。どの個体も食欲旺盛で、大きな声をはりあげて鳴いています。

## トピックス



### 毛糸のポンポンでオジロワシを作る

今年度3回目となる本イベント。これまで、キタキ、オオハクチョウを作りましたが、今回はオジロワシづくりに挑戦いただきました。あえて、毛糸をカットしすぎないテクニックを使い、オジロワシの強そうで迫力のあるポンポンが完成しました。次回はシマエナガです。



### 2月2日は「世界湿地の日」

ラムサール条約湿地であるウトナイ湖で、世界の日にあわせてイベントを開催しました。今回は環境省の魚類に詳しい職員が、特別にウトナイ湖に流れこむオタルマップ川に生息する魚を紹介。ウトナイ湖を含む湿地が、多くの生きものを支えていることを、参加者に伝えました。



## ボランティアコーナー

当センターはボランティアの皆さんに支えられています。

2023年度は33名のボランティアの皆さんにご協力いただき、フェスティバル、観察会、調査、研修会などを通し、ウトナイ湖の自然を伝え、守る活動を行ないました。



## ウトナイ湖 お楽しみコーナー

## 【ウトナイ湖・クイズ】

3月のウトナイ湖は、本州の越冬地から北上してくるマガンの群れで賑やかになります。

マガンの群れを観察していると、右の写真のように1羽を先頭にして、V字の隊列を組んで飛ぶ様子が見られます。

さて、マガンたちはなぜこのような隊列を組むのでしょうか。次の3つの選択肢の中から答えを選んでください。



- A. きれいだから    B. 飛びやすいから    C. 前が見やすいから

正解は、最後のページにあります。

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



facebook



X(旧 Twitter)



# レンジャーのおすすめ自然情報



【マガン】

ウトナイ湖ではよく見られるガン。毎年2月から3月にかけて、数万羽が見られる。甲高い声で「カハハン」とけたたましく鳴く。



【ヒシクイ】

大型のガン類。マガンと同じくウトナイ湖ではよく見られる。野太い大きな声で「ガガン、ガガン」と鳴く。



【シジウカラガン】

近年、個体数が増え、ウトナイ湖でも観察する機会が多くなった。マガンの群れの中を探るのがポイント。



【コハクチョウ】

ウトナイ湖では春と秋に見られる。オオハクチョウよりも小型で、くちばしの黄色の先の部分が丸いのが特徴。

3月は、南の地域で冬を過ごしたマガンやコハクチョウなどが渡来します。渡来数の最盛期は、例年中旬頃です。特に、夕方と明け方は、ねぐら入り・ねぐら立ちする、数万羽のガン類が見られ、羽音で空気が揺れているような迫力を味わえます。

彼らにとってウトナイ湖は、渡りの中継地です。これから繁殖地のロシア極東部へ旅立っていきます。自分の力だけで旅する渡り鳥の底力には、いつも感動を覚えます。



## ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



facebook



X (旧 Twitter)

### 自然観察路ガイドマップ【冬】



#### 冬のお薦めポイント

湖の大部分が結氷します。氷の上にオジロワシやオオワシの姿が見られます。林の中では、留鳥のハシブトガラなどのカラ類やエナガ・キバシリなどの混群が見られます。木々の葉が落ちていたので、小鳥たちを観察しやすい季節です。

冬はこのように休んでいることが多いです。  
湖の水の上に足跡がたくさんあります。